

with コロナ社会での多職種連携

～「めざす姿」の実現に向けて

「コロナ禍での医療・介護の現場から～現状と課題」

訪問看護ステーションより

社会福祉法人道 訪問看護ステーション ふれんず

柴田 恵子

訪問看護の現場から

➡ 訪問看護ステーションの現状

感染のリスク回避？ ⇒ PPEやアルコール等の確保が困難

利用者への感染予防の徹底の困難さ

利用者の急増？ ⇒ 病院等の逼迫・面会制限

スタッフの感染・濃厚接触者⇒訪問スタッフの確保の困難さ

➡ 自宅療養支援（自宅療養健康観察）

電話対応の困難さ⇒心情の読み取り・症状把握・生活状況・他の家族の状況

パルスオキシメーターの使い方

急変対応の困難さ⇒夜間・休日・高齢者・小児等

情報取得の困難さ⇒コロナ対応の流れやシステムの把握・受診や薬の確保

圏域等のクラスター等の状況

訪問・ケアのリスク⇒準備（対象者に合わせる）・感染ごみの処理

生活／食品不足

コロナ禍社会からの変化・・・

→ 伝え方・繋がり方の変化

- ・密になることの回避：訪問計画等の徹底
- ・ラインワークス等の利用：スタッフ間の密な情報伝達
- ・他の訪問看護ステーションとの連携
- ・ZOOM等での会議
- ・飲食等を伴う集まりの減少：関係つくりの変化
- ・新しいことへの挑戦

→ 新型コロナウイルス ⇒ 正しく恐れる

→ 各事業所の繋がりの強化：リスクコミュニケーションの考え方